

## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

<b>事業名</b> 一般国道17号 <small>あやど</small> 綾戸バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 関東地方整備局			
<b>起終点</b> 自： <small>ぐんまけんしづかわしかみしろい</small> 群馬県渋川市上白井 至： <small>ぐんまけんぬまたしいわもとまち</small> 群馬県沼田市岩本町	<b>延長</b> 2.3km				
<b>事業概要</b> 一般国道17号は東京都中央区日本橋を起点として、さいたま市、高崎市、前橋市等の主要都市を通過し、新潟市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。綾戸バイパスは利根川に沿った急峻な地形を通過しており、落石等による災害、線形不良箇所による交通事故の解消、関越自動車道通行止め時の代替路として機能を果たす延長2.3kmのバイパス事業である。					
H4年度事業化	都市計画決定区域外	H22年度用地着手	工事未着手		
全体事業費	約157億円	事業進捗率	7%	供用済延長	0km
<b>地域の防災面の課題</b> ・昭和62年9月に、大雨による土砂災害で、約13時間全面通行止めとなり、渋川市と沼田市の往来が寸断され地域が孤立状態となった。 ・防災点検を実施した結果、落石・崩壊の危険性が大きい箇所28箇所確認。 ・平成21年7月に、ロックシェット上に落石が発生。ロックシェット上で停止し本線への影響はなかったが、依然として通行に不安を与えている状況である。					
<b>課題を踏まえた対策・事業内容</b> ・現道17号の要防災対策区間28箇所について、平成8年度～平成14年度に防災対策を実施した。 ・抜本的な対策としてはバイパス整備が必要であり、当該地区は利根川に沿った急峻な地形であるため、現地状況に適したトンネル構造と橋梁構造とした。					
<b>事業の効果等</b> ○災害時の迂回解消を含む走行時間の短縮等 （119億円（残事業=119億円）） ○災害による被害の回避 ・バイパス整備による災害の回避、迂回の解消（要防災対策箇所の回避：要防災対策箇所28箇所⇒全箇所回避） ・渋川消防署、渋川総合病院から綾戸バイパス沿線地区までの到着時間が短縮される（0.82億円） ・歩道設置により、歩行者、自転車の安全性、利便性が向上される（0.05億円） ・線形不良箇所（半径150m未満）15箇所、急勾配区間（5%を超える）2区間⇒全箇所回避 ○地域住民の不安感の解消 ・道路の安全性・信頼性の向上（390億円）			<b>費用</b> （残事業）/（事業全体） 92/106 億円 〔 事業費： 85/99 億円 維持管理費： 7.3/7.3 億円 〕		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 県知事の意見：渋川市綾戸地区の国道17号は利根川に沿った急峻な地形を通過しており、県民の安全確保のために、本事業は道路防災対策として必要であることから、事業を継続されたい。また、各年度の事業実施にあたっては、引き続き本県と十分な調整をするとともに、コスト縮減を徹底し、効果が早期に発現するよう事業を推進されたい					
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 事業継続を承認する。 防災面の効果について、従来の3便益評価とは異なる方式による評価を試行したところであるが、こうした防災効果の評価方法については、今後も慎重に検討を続けるべきである。					
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成8年度～平成14年度に現道17号の防災対策を実施。 市町村合併により、子持村から渋川市となる。					
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成22年10月に用地説明会を開催。					
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 今後、用地買収を推進して早期に工事着手する。					
<b>施設の構造や工法の変更等</b> ー					

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

本事業は急峻な地形を通過しており、落石災害等が発生している危険な地域であることから、早期にバイパスを整備し、効果発現を図ることが重要である。

事業概要図



- ※ 1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。
- ※ 2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。